



Lord, I believe;
help you my unbelief.
Mark 9:24

【人生の無力を感じる時】

チヨナムチュル
説教: 鄭南哲牧師

マルコの福音書9章14-29節/暗唱聖句:ヘブル人への手紙11章16節

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズ信仰の家族のみなさん！一週間はいかがお過ごしでしょうか。コロナの変異株(BA.5)による感染拡大の歯止めが掛からない状況が続く一週間、みんなお元気でしたか。引き続き今週にも教会家族みんなの健康と主の見守りを切にお祈り申し上げます。明日から始まる新しい8月中にも愛する皆様とご家庭の上にさらなる神様の大きい恵みと祝福、そして格別な主の御守りを切にお祈り申し上げます！

最近、みなさんは自分の無力を感じる時はありませんか。いつみなさんは自分の無力を経験し、感じてしまうでしょうか。立てた計画通りに物事がうまく行かない時に、思う通りに、願い通りそうならず、変わらない時に、人はよく自身の限界や無力さをよく感じてしまうでしょう。例え、なかなか子どもが親の話通り、願い通り従ってくれない時に親は無力と限界を経験するでしょう。

自身の力でいくら努力し、頑張っても、おかれた状況や問題解決がまったく出来ず、全然変わらないまま状況が続くと、自身の限界と無気力を感じれない人はだれもいないと思います。

クリスチャンはある意味、神様の恵みと力を経験した人たちです。それにもかかわらず、我々は現実という谷間で時には無気力と絶望を経験しなければならないジレンマの中で生きているかも知れません。時には説明しきれない人生の苦しみを味わい、その悩みと苦しみに対して、自分がどうしようもない無気力に陥り、落胆したり、挫折してしまう時しばしばあったでしょう。わたくしも、一人の父親として、一人の牧師として、絶えず自分の無力を深く感じ、経験して来ております。みなさんは、人生を歩んでいるうちに、自身の無力さを感じる時にどうしますか。そこからどう立ち上がり、克服して来たでしょうか。

<聖書本文>

今日の聖書本文も似たような状況をよく表しています。17節を見ると、あるお父さんが悪霊に捕らわれ苦しん来た自分の息子を連れて来ていました。本文21節に出てその子どもは“幼い時から”悪霊につかれて、原語聖書では“生まれながら”になっていますが、どれほど苦しんで、死のかけに恐れ、不安し続けて来たのか今日の本文ではこう書かれています。17節「口をきけなくする霊につかれた私の息子」、25節「口をきけなくし、耳を聞こえなくする霊」、18節「その霊が息子に取りつくと、ところかまわず倒します。息子は泡を吹き、歯ぎしりして、からだをこわばらせます。」、22節を見ると、「**霊は息子を殺そうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。**」

我々はここで一生涯のこの家庭は子どものことでどれほど苦しんで来たのかが分かります。

子どもの父親は自分の愛する息子のためになんとかして治してあげようとしてあらゆる方法で努力を尽くし、試し続けたと思います。しかし、その息子も、今の状況を変えることが出来ません。そのうちにイエス様と弟子たちのうわさを聞いたでしょう。きっとすでに**マルコの福音書7章26節**で、**ギリシア人で、シリア・フェニキアの生まれであったあるお母さんがイエス様のことを聞き、やって来てイエスの足もとにひれ伏し、切実に今まで汚れた霊、悪霊につかれていた自分の娘を癒して下さるように懇願した時に、癒やされたうわさと聞いたはず**です。それで、自分と似ていたその娘を癒して下さったのなら、きっと自分の息子にある悪霊を追い出し、治して下されるという希望を持って、イエスキリストとキリストから力をきせられた弟子たちを通して、多くの人々が癒されると言ううわさを聞いて、自分の息子の病気も癒していただけないかという最後の望みをいだいて弟子たちに駆けつけたかも知れません。

イエス様の弟子たちは、以前イエス様がなされた姿を見たことを思い出したかも知れません。イエス様が悪霊に対して叱って出て行け！と命じれば追い出され、癒やされたことを思い出し、そのようなイエス様のまねをやって見たかも知れません。しかし、9人の弟子たちは一生懸命にやっても何の方法も通じませんでした。その時弟子たちもどれだけ戸惑ったでしょうか。ちょうど、その時山から三人の弟子たちと下りて来たイエス様はこの無力と戸惑い、失望の現場に来られます。後で、イエス様がその子どもを癒して下さってから、本文の**28節**で弟子たちはイエス様にそっと近づき、とっても大切な質問をします。

「イエスが家に入られると、弟子たちがそっと尋ねた。「**私たちが霊を追い出せなかったのは、なぜですか。**」

これはつまり、どうして我々が治すことができなかつたのでしょうか。どうして我々は何もできなかつたのでしょうか。なぜ？どうして？」という意味だったでしょう。

イエス様はこの質問に対して答えを与えて下さいました。要するに二つです。“**信仰がなく**”そして“**信仰が薄(うす)い**”ことでした！イエス様はこの世代に向って信仰のない世代だと言われました。**これはマルコの福音書だけではなく、マタイの福音書とルカの福音書にも記されています。**それほど聖書の記者たちはこの出来事を大切にみたのです。同じ出来事を記録している**マタイの福音書17章19～20節**はこのように語っています。「**19それから、弟子たちはそっとイエスのもとに来て言った。「なぜ私たちには悪霊を追い出せなかったのですか。」**20「**イエスは言われた。「あなた方の信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに言います。もし、からし種ほどの信仰があるなら、この山に『ここからあそこに**

移れ』と言えば移ります。(どんなことでも)あなたがたにできないことは何ともありません。」

イエス様はこのマタイの福音書の御言葉をとおして、我らも自分や自分の人生に対して無力を感じる時、そこから克服し、変えていくために、3つの大切なポイントを点検するように教えてくださっています。イエスキリストが教えて下さったその3つのポイントで我ら自身を点検し、主の御前で自分を振り返って見る時となりますようにお祈り申し上げます！

①点検1: イエス様のみもとに訪ねて問題を下ろす

父親が自分のかわいそうな息子を連れて始めに訪ねていたのはだれでしたか。イエス様の弟子たちでした。今日で言いかえると、牧師や牧者たち、キリスト教専門カウンセラーたちにたずねて来たと言えるでしょうか。彼らが解決のカギを握っているのではないかという希望をもって、彼らに相談し、助けを求めて尋ねて来たように考えられます。

しかし、結果的に、彼らは根本的な問題解決を与えてくれなかったことが分かります。もちろん、誤解しないで下さい。教会や牧師が何も役に立たず、助けにならないということを言う意味ではまったくありません。ただ、ある職務をもっている人に尋ねたという事実だけでは究極的な助けと変化にならない可能性が多いということを行っているのです。

ところが、みなさん! 今日の本文に出てくる父親はすばらしいところがありました。分かりますか。彼はそんな状況においてもあきらめないで続けてその場から離れず、イエスキリストを待っていたことです。

待っているうちに父と息子はイエス様に会えたことです!

そして、ついにイエス様がこの出来事に介入される場面を我々は見ることができます。

ですからみなさん! 結局牧師や伝道師、牧者たちなど、つまり神様の働きをする人は何をしますか。たえず、イエス様を教え導く人です。教会や祈りや学び、相談などは案内表示板のような役割をしていると言えます。表示板自体は目的地ではないでしょう。表示板に東京という文字と矢印があるというそれ自体が東京ではないのと同じです。東京に行くようにと方向を教え、案内してあげることはありませんか。同じように、牧会者は人々を、信徒たちをイエスキリストに導き、キリストに向うように、キリストと出会えるように、キリストを實際体験するように、たえず助け、仕え、導く人であるのです。教会は何を意味していますか。教会のかしらなるイエスキリストを表わします。牧師の説教や、クリスチャンカウンセリングや学びがひたすらさしているのは誰ですか。イエス・キリストです。

ある有能な牧師に出会い、カウンセラーに会ったと言え、すべての人が全部変わる事ではなりません。

今もなお、生きておられ、我らとともにおられるインマヌエルのイエスキリストのみもとに一人、一人が出て来て、出会い、頼り、御手に委ねる時こそ、究極的な問題が解決され、変わり始めます!

本文に出ている戸惑う弟子たちの姿、そして自分の息子を抱いている父親の哀れな姿を考えて見て下さい。

おそらく父親は、イエス様の弟子たちに、イエス様のようなわざが表されることを期待していたかもしれません。

弟子たちも以前隣で、近くで、イエス様がなされた姿、行動の形のまねを何度もやって見ても悪霊は追い出されず、父親の期待には応じませんでした。

彼らは結局イエスに会うときまで待つしかありませんでした。

弟子たちのいるところに来られて状況説明を聞いたイエス様はなんと云われますか。

19節に、「その子をわたしのところに連れて来なさい。」

悪霊につかれた子どもは、イエス様の前に連れられ来ました。イエス様の御前に来た時、ようやくすべてが変わり始めました。我々は教会を通して、牧師を通して、聖書の学びを通して、身につけられるべきことがあれば、それは信仰の形やだれかの人ではなく、イエス様と出会うべき、そのイエス様に向うことです。そのとき、我々も変えられ、回復とまことの癒しを経験することができるのです。キリスト教に対するうわべだけの信仰の形だけでみなさんの人生が変えられるとあまくみないでください。それだけではいけません。

本日礼拝をささげる我らの中にも二つの部類があります。“**ただいつものように礼拝の形に従って、教会堂に座って“ただ礼拝をする方もいれば、“神様の御前で”心から礼拝を捧げる人がいます。**みなさんは今どちらの方ですか。始まる8月、後残りの今年中もう一度、日々生きておられ、ともにおられるイエスキリストのみもとに出て、イエスキリストと交わり、キリストに根ざし、イエス様のみを頼り、キリストとともに歩める日々と信仰生活となりますように切にお祈り申し上げます。

②点検2: イエスキリストの御力を絶対信じる信仰を保つ

本文の**22節**に、悪しきの霊につかれていた子どもの父親はイエス様に何と云いながら助けをもとめていますか。

「**霊は息子を殺そうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。しかし、おできになるなら、私たちをあわれんでお助けください。**」これに対するイエス様の答えはもっと興味深いです。「**できるなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。**」(23節) “**できるなら**”ということばがイエス様の気にさわられたようです。

その**父親の確信のない半信半疑(はんしんはんぎ)の心から出る言葉**は厳密に言わせると、イエス様の御力を信じて積極的に助けを求めている者の姿ではありません。ほぼあきらめている状態で、最後に言い投げてみる救助要請に過ぎませんでした。“**あなたの弟子たちがみな失敗したのであれば、イエスさまも、しかたなくできないのではないかと思います**

れますが、でももし弟子たちと違って出来そうでしたら、どうか哀れんで助けてくださいませんか”という心境だったでしょう。

何の希望もないその言葉に、イエス様は、「できるなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」(23節)とイエス様は厳しく言われました！なぜでしょうか。イエス様は、この家庭の問題！このお父さんが苦しんでいる根本的な問題が何かすぐ見抜いておられたからです！悪霊にとらわれているのが、根本的な問題ではなく、神の御力を心から信じてない、神の御子イエスキリストの御力を信じてないのが、今まで彼の人生と家庭が苦しんで来た原因であることをご存じあり、だから、息子の悪霊を追い出す前に、まず、お父さんの信仰の姿勢を直して下さったことが分かります！

それに、この父親はイエスキリストの御前で、素直に、信仰告白がすぐさま変わります。24節です。「するとすぐに、その子の父親は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けてください。」この姿こそが正直な姿ではありませんか。「主よ。もう絶望です。イエス様が癒してくださるのか本当に確信がありません。とても信じがたいこんなわたくしですが、しかし、これからはっきりあなたとあなたの御力を信じます！どうかイエス様助けてください。私のこんな不信仰を赦し、助けて私も、私の息子もどうか救ってください。」

イエス様に言われてようやく子どもの父親は自分の不信仰さを具体的に表わしながら、イエス様に助けを求めている姿を見ることができます。

同じ出来事を扱っているマタイの福音書17章20節ではイエス様が弟子たちになんと言われましたか。弟子たちが子どもを直せなかった理由についてイエス様は「あなたがたの信仰が薄いからだ。」と言われました。弟子たちには信仰が薄いと言われました。イエス様は一般的に当時、その世代を“不信仰ないまの世だ。”と指摘されました。そしてその父親の心の奥底にある不信仰を見抜かれました。それにもかかわらず弟子たちには“あなたがたは不信仰だ”とは言わず、ただ“信仰が薄い”と言われました。

愛する信仰の家族のみなさん！弟子たちは決して信仰がない人々ではありません。

しかし、以前は信仰が強かったのに、深かったのに、弱くなったり、薄くなってしまいう時もあることをイエス様は教えて下さっています！

ある時はちゃんと信じたのに、ある時には信じなかったかもしれません。ある時は信仰によって働きますが、ある時は信仰を後回しにして自身の力と勢いで働いた時もあるでしょう。イエス様は、弟子たちに対して、信仰が薄いと言われました。これはつまり、今、この問題に対して神様にゆだね切っていない事です。自分の信仰を使ってないことです。神様を完全に信頼しきれない時、それは神様の御力を制限してしまうことです。

神様を100%信頼できず、頼れない時、それは神様の御力を制限してしまう結果を招いてしまいます。

我々の弱い信仰がイエス様の御力を制限してしまいます。みなさん！信仰は成長し、信仰は動き、信仰は生きています。

イエス様が病に患っている人々を癒すたびによく使われたお言葉は何でしたか。

“あなたの信仰のとおりになれ。”でした。

私はこの御言葉が真理だと信じます。わずかな信仰はわずかな結果をもたらすでしょう。大きな信仰は偉大な結果をもたらすと信じます。我々が信じる偉大な神様を小さな神様につくらないように気をつけましょう。

どこにもおられ、すべてを御存知であり、不可能なことは何一つない父なる神様、救い主イエスキリストがみなさんの人生の数々の難関の諸問題の中無力を感じる我らを、乗り越えさせ、回復させて、必ず神様の栄光をあらわす存在として用いて下される偉大な神様の御力を信じましょう。

③点検3:信じて祈る力を体験しているのか

本文の28節をみてください。弟子たちはイエス様に聞きました。「イエスが家に入られると、弟子たちがそっと尋ねた。「私たちが霊を追い出せなかったのは、なぜですか。」

これにイエス様はこのように答えます。

29節「すると、イエスは言われた。「この種のものは、祈りによらなければ、何によっても追い出すことができません。」

マタイの福音書では“信仰が薄いから”だと答えられましたが、マルコの福音書では“祈らないから”だと言われました。

結局は同じ話です。我々が信仰が弱くなり、薄くなり理由に、今日の本文は祈らないからだと教えています。

祈りの生活がみだれて来るとき、祈りの力を失ってしまうとき、神様に対する信頼は自然に揺るがされ、信仰も弱くなってくるのは当然です。

すると祈りとはなんですか。一言で言うと、祈りは神様と新皆関係を保つ時(会話・交わり)であり、神に頼り委ねることが祈りでしょう。ですから、祈らないというのは、神に頼らず、委ねずに自身の力で、頭で生活しているので、当然信仰が弱くなるしかありません。

イエス様の弟子たちが無力を感じ、神の力を体験出来なかった理由は、今のイエス様との信仰の関係にありました。

自分たちの経験した過去の経験や自身の力ではなく、イエスキリストが今しばらくいらっしゃらなくても、いつもイエス様がなされた祈りを覚え、神にたより祈ったならば、イエスキリストの御名によって、残されていた弟子たち9人が共に、この病人をために信じて祈ったならば、どんな結果になったのでしょうか。きっとイエス様がなされた神の癒しの御業を体験出来たはずでしょう。彼らは一番大事な祈ることを忘れていたのです！！

愛するみなさん!祈りは何ですか。自分の限界を認め、自分には力がなく、神様の力を信じて頼り、委ねることです！神の助けを頂ける近道であります。神と日々交われる、神の絶対信じる信仰の表しが祈りなのです！

祈りこそが神様に対する絶対信仰の表現であり、告白であることを忘れないください。絶対信仰をもって祈りの力を信じ、イエス様に直接人生の様々な問題や悩みを持って祈りませんか。必ず祈りの答えを日々みなさんの家庭で、牧場で、教会で、職場で体験出来るように共に祈りに、祈りの答えを通して実際神の御力を日々体験していく祝福と幸いの8月、残りの今年となりますようにお祈り申し上げます。アーメン!!